

部材をクレーンで持ち上げ架設するテクスパン工法の施工現場

テクスパン工法導入、アーチカルバートの施工状況公開

水元建設が施工 国道39号北見道路の建設現場



【北見】現場打ちカルバートなどに代わる新技術として知られる、テクスパン工法を取り入れたアーチカルバートの施工状況が11月30日、北見市川東の国道39号北見道路の建設現場で公開された。水元建設（本社・北見）の施工で、発注した網走開建の職員らが、同工法の普及を図るヒロセ（同・東京）の担当者から概要説明を受けた。

フランスのテールアルメ社が開発した同工法は、3

ヒンジ構造を採用したアーチ構造物に用いられる。外力と釣り合いながら変形し、部材の曲げを抑制することが可能で、従来の現場打ちカルバートやプレキャストアーチよりも薄い、40センチ以下の部材で施工できる。

1日当たり10センチ程度の部材を架設し、工期を大幅に短縮。同一作業の繰り返しのため、特別な手間も不要という。

網走管内でこの工法を取り入れたのは初めて。開建によると、施工場所の沢に生息するニホンザリガニの保護を目的とし、生態系へ影響を与えないよう、沢を一切改変せずに済むテクスパン工法を採用

した。工事は前日の29日から始まり、360トンのクレーンで

部材を持ち上げて順次、架設している段階。水元建設の嵯峨孝二工事長は「一両」と話している。

日中にも完成する。着実な工期短縮が図られている」と話している。